

平成 25 年度 223AV 配信・百周年記念館ワーキンググループ業務報告

223AV 配信・百周年記念館 WG メンバー

○清水 久雄, 佐藤 宇紘, 上田 誠, 大嶋 康敬, 志田 賢二,
小畠 一生, 須惠 耕二, 佐藤 徹哉, 大石 智博, 稲尾 大介

本ワーキンググループでは工学部 2 号館において入部式や各種試験等において複数の教室を利用する際、223 教室で行われる各種行事の映像および音声を他教室へ配信する業務および、工学部百周年記念館で開催される学会や講演、シンポジウムにおける照明、音響、映像などの技術的サポートを業務としている。

平成 25 年度の依頼件数は 72 件。多くが大学全般(学部主催含む)主催で、学外主催での業務は全体の 20% 程になった。内容に関してはシンポジウムや講演会が約半数を占め、百周年記念館はそれらのイベントの中心になり様々な大きなイベントを成功させているものと考えられる。また、安全講習会や救命措置講習会など、普段の教育研究業務において必要とされる講習会が開催され、教職員、学生ともに研究業務活動へ専念できる環境を作っている。

また、25 年度の業務は 72 件と昨年を若干下回りましたが、学会やシンポジウムなど数日間にわたって開催されるものもあり、WG メンバー一人あたりの対応数としては年間 9 回前後となる。また、業務減少の要因としては、業務内容にある「機器操作説明」が関係していると考えられる。実際、百周年記念館一年間の利用状況は過密であり、ほぼ毎日とっていいほどの予定が入っている。そこを考慮すれば年間 72 件の業務依頼は少ない方と考えるべきであり、それは「機器操作説明」で学んだ教職員が、我々 WG を介さなくても自前で運営できる状況にあるからだと考えられる。ただ、操作等が曖昧な状態で使用していることも少なくはなく、機器設定の大幅変更や格納椅子などの強制使用など無理をした扱いも見られ、次のイベントの開催に支障をきたしかねない状況も見受けられた。また、照明の消し忘れ(通路側)などもあり、今後は利用される教職員の更なる機器操作スキル向上と利用ルールの徹底が必要である。

新しい機器として大型液晶モニタの導入があった。この機器はイベントの玄関前ポスターとして、講演時の式次第や演題表示など幅広く利用でき、様々なイベントに利用されるものと考えられる。

以下に平成 25 年度ワーキンググループに依頼のあった業務の利用内容をグラフ化したものを記す。

